

様式第3号（第11条第2項関係）

議 事 概 要 書	
第3回 玉野市水道事業審議会	
開 催 日 時	令和8年1月23日（金曜日）10時から11時25分まで
開 催 場 所	玉野市役所3階 特別会議室
出席者	玉野市水道事業審議会委員9名 高山委員、本田委員、河村委員、小松委員、大内委員、住吉委員、田中委員、浅野委員、三浦委員 事務局7名 岡野建設部長、大賀水道課長、相澤課長補佐、内橋主幹、塚常係長、板野係長、大塚主査
傍聴の可否	可（傍聴人数3人）
審 議 概 要	<p>1. 開会</p> <p>2. 議事</p> <p>（1）水道料金改定の検討について <資料に基づき事務局から説明> <委員質疑・意見></p> <p>（委員） 企業債の増加を懸念していると考えますが、玉野市の場合、今は比較的安く収まっている中で、案3では類似団体平均値に近づくことになる。企業債はできるだけ安く抑える考え方を基本としていると見るべきか。</p> <p>（事務局） 今は比較的安く抑えられているが、企業債の増加は少なからず今後の事業運営に影響を与え、利息の支払いも最終的に料金に反映することになるので、市民負担とのバランスを考えつつできるだけ安く抑えたい。</p> <p>（委員） 身近に影響が及ぶ管路の今の状況が今ひとつわかりにくい。実際に断水になれば、料金の値上げよりも深刻な影響があり、それだけは避けて頂きたい。更新すべき基幹管路がどの位置にあるか判りにくいいため今後の更新の優先順位など考えにくいところがある。</p> <p>（事務局）</p>

主要な管路の位置は参考図を見て頂きたい。管路の更新は断水の影響が大きいところから行っていききたいと考えている。今後わかりやすい資料の提示を考えたい。

(委員)

更新の指標が「総延長に対して何キロ更新した」というものだと口径の大きい管路更新の場合、工事費はかかるが延長が伸びず、数値として見えてこない。断水時に影響が出る件数や水量といった、投資効果がわかりやすい指標を盛り込むのはどうか。

(事務局)

管路の更新率や経年化率については、総延長に対しての指標となっている。ご指摘の通り、より効果が伝わりやすい指標の導入を研究したい。

(委員)

前は現預金の取崩しを行うとのことだったが、今回の案はどのようなになっているか。

(事務局)

今回の案の前提に含めており、10年先にはギリギリ枯渇しない案となっている。

(委員)

今後の受水費の値上げはありうると考えるが、反映しなくてもこの数字なのか。

(事務局)

そのとおり。

(委員)

市民の中には料金の値上げは仕方ないが、施設の改善を優先してほしいと意見が多かった。

(委員)

実際に施設を改良するには労働力も必要となる。その辺りのバランスも考えてスピード感のある管路の更新に結びつけて頂きたい。

(事務局)

これまでの実績から、実現可能な投資額というところで案を作成している。現時点では水道工事で入札の不調などは起きておらず、実施可能と判断している。

(委員)

案2、案4ではどちらが早く老朽化の対応ができるのか。

(事務局)

建設改良費の額は同じでどちらも変わらない。料金改定率と企業債の借入額が異なっている。

(委員)

案2と企業債（借金）を抑える案4とを比べると、企業債の差は大きくない。市民の側からすれば改定率は低い方が良いという意見も多々あるのではないか。

(委員)

人口減が続く中、債務残高を増やし若い世代に負担を残すのではなく、改定率が高くとも負担を後回しにせず、余裕のある財政で事故のない運営をしてほしい。

(委員)

料金単価の設定で従量料金の設定などあるが、改定率を決めた上で料金体系を見直すのか。料金体系が決まれば9年度から反映するのか。

(事務局)

料金体系については改定率を決めた上で今後検討して頂くが、9年度の値上げには反映しない。

(委員)

どの改定率を選択しても、次期の値上げは必要と感じるが、何か想定しているか。

(事務局)

次回の料金改定は近々必要と考えている。

(委員)

企業の側からいえば、水道が止まれば数日でも事業を止めなければならなくなる。その場合の損害は値上げどころの話でなくなる。改定率が高くとも、改良を優先してほしい。

(委員)

利用者側の意見の相違があるのなら、用途別での検討も必要なのではないか。

(事務局)

今後の料金体系の検討の中で意見を出し合いながら反映したい。

(事務局)

管路の更新・耐震化を加速するため、建設改良費を増額した案2～5を提案した。案3は10年経過後企業債残高対給水収益比率が300%を超える。案5では改定率が35%に達する。これらを考えれば案2もしくは案4が望ましいと考えている。

<各委員による案の選択・意見表明>

委員：案2を支持 いずれの案も主要な基幹管路更新という現実的な計画に基づいている。審議会資料の料金表を精査すると、値上げによる家庭や事業者の負担増が懸念される。案4より案2が妥当。

委員：案2を支持 水道管の状況が十分に広報されていない現状で、27.89%（案4）という数字は理解を得にくい。他自治体でも「上げ幅の理由が不明」との苦情が多い。丁寧な説明を前提に、低い方の案2が良い。

委員：案4を支持 先ほど5案と言ったが、2か4なら4を選択する。ポイントは市民や企業に対し「なぜ上げなければならないか」を分かりやすく広く説明することであり、それが今後の必須作業となる。

委員：案4を支持 令和12、13年度から再度改定の議論が必要になる状況を、早めに、かつ丁寧に説明していく必要がある。その前提に立つならば、今回は案4を選択する。

委員：案2を支持 キャッシュフローを見ると令和12年にはどの案もマイナスになる。将来を見据え、改定の審議ペースを早めて令和13、14年には改定を検討していくという形をとれるなら、今回は案2でお願いしたい。

委員：案2を支持 市民への周知が不十分な現状では、改定率は低い方が良い。周知を尽くした上で、将来どうしても必要だと納得が得られるなら話は別だが、現時点では案2が妥当。

委員：案4を支持 市民として値上げ回避は率直な願いだが、今後、人口も減少する中で、改定率を抑えて、先送りすれば負担は増す。将来世代への負担転嫁を考えれば案4

を選ぶべき。

委員：案2を支持（案4も許容） 安全第一の水道のためには値上げはやむを得ない。案2を選んだ場合でも「本当は他の案もあったが、今回はこれに抑えた」という説明ができる。安い方が良いという市民感情も踏まえ、案2を支持する。

<審議のまとめと追加意見>

（会長）

2と4で意見が分かれたが、全体の意向を総計すると「改定案2（25.8%）」が総意となる。この方向で異議はないか。

（委員）

案2は「数年後に必ず再値上げがある」という大前提を今後しっかり丁寧に周知するならやむを得ないと考える。

（事務局）

皆様の懸念を重く受け止めた。未更新箇所を少しでも早く更新できるように方策を考え、不十分なPR活動も改善していく。

（委員）

更新率だけでなく、地図で示す、あるいは被害の大きさを重要性を説くなど「市民に分かりやすく伝える視点」が、今後の改定協議においてもプラスになる。

（事務局）

提示した中で最低の改定率である案2という判断をいただいた。これは「5年後に必ず再度検討する」という条件付きの判断と受け止める。値上げの周知に加え、経営努力も並行して進める。次年度以降は年に1回、経営状況や工事の進捗を報告し、審議する場を設けていく。

<会長まとめ>

（会長）

答申案の方向性として、改定案2（料金改定率25.8%）、令和9年度からの実施とする。水道事業継続のため改定は避けられないが、単に上げるだけでなく、効率的な事業運営と経営努力を継続し、これまでの審議会意見を反映した答申とする。

(2) 今後のスケジュール 令和8年2月12日の第4回審議会で答申案の確認を行う。

	3. 閉会
特 記 事 項	
事 務 局	玉野市建設部水道課（電話 0863-33-9666）